

南信州広域連合議会
全 員 協 議 会

平成24年11月29日

南信州広域連合事務局

南信州広域連合議会 全員協議会会議録

平成24年11月29日(木) 午後2時50分 開議

1. 開 会
2. 議長挨拶
3. 理事者挨拶
4. 協議・報告事項
 - (1) 成年後見支援センターの設置について
 - (2) 南信運転免許センターの設置について
 - (3) 特別養護老人ホームの入所調整の確認書について
 - (4) 火災放送システム代替案及び指令施設の概要について
 - (5) J R 飯田線における駅営業体制の変更について
 - (6) 次期ごみ処理施設の整備に向けた取り組みについて
 - (7) 中央自動車道のり面の管理に関する要望について
 - (8) リニア将来ビジョンの具体化について
 - (9) 平成24年度議会日程について

平成25年南信州広域連合議会第1回定例会 平成25年 2月21日(木)

5. 閉 会

南信州広域連合議会 全員協議会

日 時	平成24年11月29日（木） 午後2時50分～午後5時05分
場 所	飯田広域消防本部 3階会議室
出席者	熊谷（英）議員、下平（豊）議員、松村議員、横前議員、原（嘉）議員、木下（藤）議員、堤本議員、後藤（文）議員、宮嶋議員、坂巻議員、小池議員、熊谷（時）議員、上原議員、勝又議員、仲藤議員、福田議員、宮外議員、中平議員、松下議員、白川議員、米山議員、新井議員、木下（克）議員、木下（容）議員、下平（勝）議員、村松議員、後藤（荘）議員、伊壺議員、中島議員、上澤議員、林議員、井坪議員、原（和）議員、14市町村長（泰阜村長代理）、佐藤副管理者、山田消防長、桂消防次長、有賀総務課長補佐兼庶務係長、秦野飯田市企画課企画調整係長、米山環境センター事務長、北原飯田環境センター専門主査、園原飯田環境センター庶務係長
事務局	高田事務局長、吉川事務局次長、小林次長補佐兼介護保険係長、北原次長補佐兼庶務係長、近藤広域振興係長、林庶務係主査

1. 開 会
2. 議長挨拶
3. 理事者挨拶
4. 協議・報告事項

No	項 目 名	資料	頁
1	成年後見支援センターの設置について …資料による説明（高田事務局長）	1	5
2	南信運転免許センターの設置について …資料による説明（吉川事務局次長）	2	6
3	特別養護老人ホームの入所調整の確認書について …資料による説明（吉川事務局次長）	3	7
4	火災放送システム代替案及び指令施設の概要について …資料による説明（桂消防次長）	4	9
5	J R 飯田線における駅営業体制の変更について …資料による説明（吉川事務局次長）	5	11
6	次期ごみ処理施設の整備に向けた取り組みについて …資料による説明（高田事務局長）	6	13

7	中央自動車道のり面の管理に関する要望について …資料による説明（木下（克）議員）	7	14
8	リニア将来ビジョンの具体化について …資料による説明（ ）		19
9	平成24年度議会日程について		18

5. 閉 会

- (上澤議長) それでは、ただいまから全員協議会を開催いたします。
次第には2番、3番と挨拶がありますが、本会議に引き続いてでありますので、省略をいたします。
早速4番の協議・報告事項に入っていきたいと思えます。

4. 協議・報告事項

(1) 成年後見支援センターの設置について

- (上澤議長) 初めに、成年後見支援センターの設置についてを議題といたします。
事務局より説明を求めます。
高田事務局長。

- (高田事務局長) それでは、資料No.1をごらんいただきたいというふうに思います。

成年後見制度の利用促進についてということで、この一番上に書いてありますように、昨年の11月から飯田市とそれから下伊那郡内の町村の代表者の方、それから関係機関等でもって成年後見制度利用促進検討会というのが開かれてまいりました。11月の連合会議にその中間報告ということで説明がございましたので、その資料を本日見ていただくものでございます。

その下に囲みがありまして、成年後見制度とはということで、認知症ですとか精神障害のことによって、物事を判断する能力が不十分な方のために法律的に保護をする、支援をする制度が成年後見制度でございます。その成年後見支援センターは、地域でそうした成年後見制度の普及、啓発、それから相談、あるいは法人後見の受任等、成年後見制度の支援の推進をする中核となるセンターということで、その設置についての検討が進められてきたという、そういうことでございます。

本日は、その検討の方向性が見えてきたということで説明がございましたので、その内容について御説明をさせていただくものでございます。

2ページをお願いいたします。この成年後見支援センターにつきまして、飯田市が定住自立圏の枠組みを使って設置、運営をし、各町村からの参加もお願いするように働きかけをしていくということでございまして、平成25年度のできるだけ早い時期を想定して設置をしていきたいということだそうでございます。

センターの主な業務というところが(6)にございますけれども、センターによります専門相談ですとか、それからその成年後見制度の普及啓発のための事業等を取り組んでいくこと、それから将来的には成年後見の受任、法人後見の受任までできるようなセンターの機能としていきたいということだそうでございます。

それから、設置費用の負担の関係が(8)にございますけれども、人件費、当座の事業費等を見込んで、その経費については、市町村からの委託料で賄うということで、各市町村の負担の割合については、これから関係市町村で協議により決定するということだそうでございます。

それから、今後の進め方でございますけれども、25年度からのセンターの設置を想定して検討を進めるということでございまして、今、(1)が行われているところでありまして、(2)は町村とセンターの設置にかかわる費用負担の協議というのがこれから行われまして、25年度の予算に向けて検討がされるということだそうでございます。

それから、定住自立圏の枠組みということでございますので、平成25年の3月の議会に向けて、協定の項目への追加等についてこれから検討するというを伺っております。以上のような説明がございました。

次のページに成年後見支援センターの位置づけのイメージ図がございます。今、一番上にあります成年後見支援センターというものはございません。各市町村の地域包括支援センターですとか、市町村の役場の担当者の方が相談に応じているわけでございますけれども、専門的な相談の支援ができるようなセンターをつくらせていきたいというのが趣旨でございます。

最後に裏面でございますけれども、長野県内で既にスタートしている支援センターがございます。見ていただけますように、やはりそれぞれの圏域ごとにセンターができて運営がされているという状況が多いようでございます。こうした状況を見ながら、もう少し詰めをして、負担の割合ですとか、それから定住自立圏の協定の変更に向けての取り組みが進められていくということでございますので、御理解をいただきたいというふうに思います。

以上でございます。

(上澤議長) 説明が終わりました。

御質疑はございませんか。よろしいですか。

(「なし」との声あり)

(上澤議長) なければ、説明がございました成年後見支援センターの設置については、聞きおくことといたします。

(2) 南信運転免許センターの設置について

(上澤議長) 次に、南信運転免許センターの設置についてを議題といたします。

事務局の説明を求めます。

吉川事務局次長。

(吉川事務局次長) それでは、(2) 南信運転免許センターの設置について御説明をさせていただきます。

資料はお手元の資料No.2をごらんいただきたいというふうに思います。

この件につきましては、前回、10月23日の全員協議会でも御報告、御説明をさせていただきました。それ以降の取り組み、動きにつきまして、説明をさせていただきます。

広域連合といたしまして、運転免許センターの候補地の集約を行いました。それを受けまして、設置者であります長野県に対しまして要望活動を行ってまいりました。11月22日でございますけれども、県警本部長への要望活動を行いました。また、11月26日には阿部知事に対しまして要望活動を行いました。この要望活動につきましては、連合長のほか、構成する町村長さんにも御同行いただきまして、要望をしていただいております。また、地元県議の皆様につきましては、前もって11月20日でございますけれども、事前に説明をさせていただきまして、アドバイス等をいただきまして、当日、26日の県知事要望にも御同席をいただいております。

お手元は26日の県知事要望書の写しでございます。22日の県警本部長に対する要望につきましても、同様の内容で行っておりますので、よろしく願いいたします。

要望の内容でございますけれども、ごらんのとおりでございますけれども、まず南信州広域連合といたしまして、候補地の集約を行ったということで、中ほどに、その提案には3つのメリットということで掲げさせていただいております。最初の丸でございますけれども、飯田駅周辺はJR飯田線やバス路線などの公共交通が結節し、住民の利便性が最も高いということ、2番目の丸でございますけれども、飯田駅周辺は飯田下伊那地域のほぼ中心であるとともに、塩尻市の中南信運転免許センターを意識した場合、上伊那南部や木曾南部からの来所も期待できるなど、位置的なバランスがいいということ、3番目の丸でございますが、飯田駅周辺に運転免許センターが設置されることにより、多くの住民が中心市街地を訪れ、地域の活性化につながるというようなことを掲げまして要望したという、そういう内容でございます。

要望事項でございますけれども、2項目でございます。1番目といたしましては、南信地域住民に対する運転免許証の即日交付を行うための南信運転免許センター、仮称でございますが、早期に設置していただくようお願いいたしますということが1番ございまして、これは7月に行いました要望活動と同じ記載内容でございます。

2番目の項目でございますが、これが追加した要望項目でございますけれども、設置場所については、利用者の利便性が最も高いJR飯田駅周辺としていただきますようお願いいたしますということで、11月26日付で県知事に要望をさせていただいたところでございます。

以上で報告とさせていただきます。よろしく願いいたします。

(上澤議長)

説明が終わりました。

御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(上澤議長)

なければ、説明がございました南信運転免許センターの設置については、聞きおくことといたします。

(3) 特別養護老人ホームの入所調整の確認書について

(上澤議長)

次に、特別養護老人ホームの入所調整の確認書についてを議題といたします。

事務局の説明を求めます。

吉川事務局次長。

(吉川事務局次長)

それでは、(3)について御説明をさせていただきます。お手元の資料のNo.3をごらんいただきたいというふうに思います。

特別養護老人ホームの入所調整の確認書ということでございます。南信州広域連合におきまして、特別養護老人ホームの入所調整の事務をさせていただいておりますが、そのルールということで、こういった確認書を作成をいたしまして、それに基づいて入所調整をさせていただくということでやっております。

この確認書につきましては、2年ごとに見直しをするということで運用しておりまして、今回、その2年目の期間になったということで、ごらんのような確認書を新たに更新をさせていただいたと、そういう内容でございます。

6項目ございますけれども、1番でございます。入所定員の増員が行われた場合、増員分について新たな優先入所枠50%を設定するというところであります。この項目につきましては、今回ではなくて、2年前の更新のときに設定がされた項目でございます。

かつて南信州広域連合でもって設置をしておりました特別養護老人ホーム、現在はそれぞれの所在市町村さんに移管をさせていただいて、それぞれ管理運用していただいているという状況でございまして、優先枠というのを入所定員の2割というふうに設定をさせていただいたところでございますけれども、その施設について入所定員の増員が行われた場合、その場合にはその増員部分については優先枠を50%ということにさせていただくというルールが2年前にできております。

2番目の項目でございますが、こちらの項目が今回の見直しの一番大きなものでございますけれども、所在市町村などは増床分以外の優先入所枠を3割とし、増床分の優先入所枠を加算するという事で、従来2割であった優先枠を3割という事で、1割加算をするという事でございます。これにつきましては、それぞれの施設、各市町村さんの御努力によりまして運営がされております。また、現在の入所状況を見ますと、2割を3割といたしましても、実質的な影響というのが余りないといえますか、特にこれによって不利益になるという状況がないという判断をいたしまして、この1割アップということをお願いをしたという事でございます。

3番でございますけれども、全面改築を行った場合の優先枠でございますが、こちらにつきましては、今回、新たに設定させていただいたものでございます。これは1番の定員の増員が行われた場合に準じまして、同じく50%という事でお願いをするという事でございます。

それから4番でございますが、ユニット型を導入した施設は、希望があれば広域連合で入所調整していくという事で、近年の改築あるいは定員の増員等、今後、増築される施設につきましてはユニット型を選択される場合が多くなる、あるいはなっているという状況でございますが、その場合であっても、希望があれば広域連合で入所調整をさせていただくという事でございます。

5番につきましては、入所調整について引き続き広域連合が行うという事で、ユニット型、あるいは地域密着型という事で、いろいろな形での設置が今後されてくるというように思われますので、各施設、既存の施設につきましては、広域連合で今年度に入りましてアンケート調査等をさせていただきました。そういった結果も踏まえまして、引き続き広域連合でもって入所調整についてはしていただきたいというような希望も多うございましたので、引き続き広域連合で担当させていただくという事を改めて確認させていただいたところでございます。

それから6番でございますが、これは従来もこんなルールでやっておりましたけれども、2年ごとに見直しをするというようなことで、今後も運営をしてまいりたいという事でございます。

適用日につきましては11月16日という事で、この日に開催されました広域連合会議で御決定をいただきましたので、この日をもって適用ということにさせていただきましたが、ただし書きのほうにつきましては、これは阿南荘につきましては、既に全面改築という事で取り組みをしていただいておりますが、定員につきましては、従前の優先枠35という事で運用をしておりましたけれども、確認書の3番につきましては、少しさかのぼりになりましたけれども、50%という事で、この4月からですかね、入所枠というのを50%という事で今後はさせていただくという事で、それぞれ広域連合会議の中で御決定をいただきましたので、報告をさせていただきます。

以上でございます。

(上澤議長) 説明が終わりました。
御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(上澤議長) ないようですが、なければ、説明のございました特別養護老人ホームの入所調整の確認書については、了解をしたということによろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

(上澤議長) それでは聞きおくこととします。

(4) 火災放送システム代替案及び指令施設の概要について

(上澤議長) それでは次に、火災放送システムの代替案及び指令施設の概要についてを議題といたします。

事務局の説明を求めます。

桂消防次長。

(桂消防次長) それでは、(4)について御説明を申し上げたいと思います。資料No.4をごらんいただきたいと思います。

まず最初に、指令施設の概要につきまして御説明申し上げます。指令施設につきましては、消防救急デジタル無線の整備に合わせまして、消防施設の2型ということで整備を進めているところでございますが、その概要につきまして御報告を申し上げたいと存じます。

新しいシステムの整備につきましては、その整備によりまして緊急通報への迅速な対応や消防活動の支援を行って、住民の安心安全につなげたいとするものでございまして、その機能につきましては、2番に主なものとしまして6つほど記載をさせていただきました。上段にございますまず一番大きなところでございますけれども、災害場所の迅速な把握ということございまして、従来は番地を指令係員が聞き取りをしまして、それから場所を特定していくというものでございましたけれども、今度の指令施設につきましては、家庭の固定電話や携帯電話からの119番通報を同時に指令台の受信画面の地図に通報場所が表示されますので、それによりまして早い出動、早い現場到着が可能になるというものでございます。

それから、大規模災害の対応力の向上ということで、二つ目でございますけれども、常時は3席ございますけれども、大規模災害時にはそれを割りまして6席で受信が可能になるというものでございます。

それから、消防職員・団員の素早い招集ということで、火災出動指令をかけますと同時に、指令台からそれぞれ個人の消防職員の携帯電話のほうにメールが転送できるシステムがございますので、そういったものを活用いたしまして、現場への早い人員招集をしていきたいとするものでございます。

それから下段にございます分署からの駆け込み通報の受信ということで、署、分署が空になったときに、住民の方が駆け込んだときに、いち早くその情報を指令台のほうで取得できるというものでございます。

それから、災害弱者からの通報の受信ということでございまして、耳や言葉の不自由な方からの119番通報につきましては、Eメールですとかファクスによりまして、迅

速な対応をしたいとするものでございます。

それから、車両管理と支援情報の受信ということで、車両に機器を取りつけまして、車両の位置とか、それから車両への情報伝達とか、そういうものをさせまして、よりの確なる消防活動を支えていきたいとするものでございます。

主な機器につきましては、3の(1)に記載のとおりでございます。

それからまた裏面2ページをごらんいただきたいと存じます。多少違うかもしれませんが、おおよそこんなような感じになるということでイメージ図を添付してございます。

それからまた3ページには、機器の配置と流れを示した構成図を添付してございますので、また御高覧いただきたいと存じます。

いずれにいたしましても、指令施設の運用に当たっては、施設が最大限に活用できるように住民の皆様にお知らせをする中で、迅速な通報をいただけるよう対応してまいりたいと考えております。

続きまして4ページをごらんいただきたいと思えます。火災放送システムの代替案についてでございます。現在、火災放送につきましては、消防本部から消防同報無線を使って市町村に電波を送り、それが防災無線の屋外スピーカーで放送されるようになっておりますけれども、無線のデジタル化に伴いまして、消防本部から今の無線を使って放送することができなくなります。平成28年6月以降はできなくなるということでございます。

デジタル無線の整備を進める中で、新しいシステムについて検討してまいりましたが、一定の方向が出ましたので御報告をさせていただきたいと存じます。2月の全員協議会の中でも御説明させていただきましたが、3つの代替案でございます。それぞれ4ページに1、2、3とございますけれども、1及び2の方法につきましては、無線または有線を使って消防本部から遠隔で放送するというもので、現在の操作上の方法とはかわりはございませんが、整備費用に差が生じるというものでございます。またどちらの方法を使いましても、電波利用者協議会というものが設置が必要になるものでございます。3の方法につきましては、消防本部から市町村に連絡させていただきまして、市町村で放送するというものでございまして、整備費用は伴いせんが、24時間対応が難しいというものでございます。

続きまして、次の5ページをごらんいただきたいと思えます。その3つの方法の中からどの方法を選択するかということでございますが、広域連合会議の総務・文教・消防部会などで検討いただきまして、その結論といたしまして、一番上段に記載してございますけれども、有線遠隔による方法で行うことが適当だろうということでございます。また、その有線は何を使用するかということでございますけれども、現段階では、中段に黄色く色塗りをしてございますけれども、電話のNTTの光ケーブル回線が適当ではないかというものでございます。中段のところには有線遠隔と無線遠隔の概要費用の比較についてまとめてございますので、また御高覧いただきたいと思えます。

なお、現在行っている同報無線による放送につきましては、取り扱う機器が老朽化はしておりますけれども、期限となります平成28年度までは使えるところまで使用していきたいと思っております。今後につきましては、市町村と利用者協議会の設立に向けまして調整を進める中、また総務省の通信局と調整を図る中で、適切な時期を考慮して実施してまいりたいと考えておるところでございます。

以上、よろしくお願ひいたします。

(上澤議長)

説明が終わりました。

御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(上澤議長)

なければ、説明のございました火災放送システム代替案及び指令施設の概要については、聞きおくことといたします。

(5) JR飯田線における駅営業体制の変更について

(上澤議長)

次に、JR飯田線における駅営業体制の変更についてを議題といたします。

事務局の説明を求めます。

吉川事務局次長。

(吉川事務局次長)

それでは、5番について説明をさせていただきます。

お手元の資料No.5をごらんいただきたいというふうに思います。

この件につきましては、先ほどの一般質問でも議論をしていただいたわけですが、おすけれども、お手元の資料、少しまとめさせていただいたものを説明させていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひいたします。

JR飯田線における駅営業体制の変更についてでございます。1番でございますが、JR東海の沿線市町村への説明の状況ということで、経過でございますが、まず10月29日の月曜日に高森町さんにJRの担当の方がお見えになって、市田駅の営業体制の変更について説明があったというふうにお聞きしております。それから11月1日には松川町さん、それから11月2日には飯田市さんに対して同様の説明があったという、そういう状況でございます。

その営業体制の変更の内容でございますけれども、飯田線の長野県内の有人駅のうち9駅の営業体制を変更するというところで、当飯伊地域におきましては4駅、飯田市の鼎駅、元善光寺駅、それから高森町さんの市田駅、松川町さんの伊那大島駅ということでございます。また上伊那地域の5駅についても同様に、飯島駅、駒ヶ根駅、沢渡駅、伊那北駅、伊那松島駅について提案があったということでございます。現在、この9駅については、既に関連会社の東海交通事業株式会社が受託管理をしているという、そういう状況でございます。今回の説明ではそれを廃止をいたしまして無人化にするという、そういう内容でございます。これが実施されますと、JR飯田線の県内の有人駅は、天竜峡、飯田、伊那市駅の3駅のみになるという、そういう状況となります。その時期でございますけれども、平成25年、来年の4月1日ということで説明がございました。また、簡易委託販売契約というのを締結いたしまして、経費を負担した場合には、その経費でもって有人化が実施されるという、そういうことでございますが、それについては12月末までに連絡をしてほしいという、そういうことでございました。また、無人化後の駅舎の管理については、管理駅がそれぞれ対応するというところでございます。

(3) 各駅の乗車人員の状況ということでございますが、それぞれ現在の有人駅の状況について、これはJRの資料でございますけれども、こんな形で提示をされたということでございます。平成元年度が国鉄が分割民営化された翌年というようなことで、それから昨年、23年度を比較しますと、それぞれ乗車人員が減少しているということでございます。飯伊の有人駅の平均では46.9%、上伊那との合計では43.6%で、

乗車人員が減少しているということが一つの理由ということになるのかなということでございます。

めくっていただきまして（４）でございますけれども、ＪＲ東海さんの説明についてでございます。この最初に、変更というのは、飯田線に限らず見直しを進めているんだというような説明がございました。また無人化については、利用状況や収入、人員配置等を総合的に判断した結果であり、これといった基準はないということでもございました。また、路線、これは当地については飯田線でございますけれども、維持していくためには、効率化が必要であり、御理解をいただきたいと。それからリニア中央新幹線の計画とは特に関係はないんだという、そういう説明でございました。

２番で各自治体の対応等ということで、広域連合として入手している情報の範囲の中で記載をさせていただいておりますが、よろしくお願いたします。

まず高森町さんでございますけれども、１１月１日の町の議会の全員協議会において方針が説明された。市田駅の無人化に関しまして、町民の皆さんの意見を募集をされていると、そんな対応をされています。

飯田市につきましては、先月１１月２日ですね。当日の２日に市長のコメントが発表されてまして、ごらんのとおりでございます。地域住民、利用者への影響を配慮し、関係する町村と今後の対応について協議をしたいと考えている。引き続き、飯田線の利用促進に向けて取り組むとともに、東海旅客鉄道株式会社に対しては、飯田線の重要性についてさらなる理解を求めていきたいというコメントを発表したところです。

それから１１月２日には総務文教委員会で報告予定となっておりますが、済みません、これは終わっております、報告済みでございます。申しわけございません。

それから松川町さんにつきましては、今も検討されているという状況でございます。それから上伊那の動きでございますけれども、上伊那の広域連合では正副連合長会議が１１月１２日に開催されまして、そのときに上下伊那の連携に向けＪＲ飯田線の利用促進連絡協議会で対応していくということ、それから長野県にも協力を求めるということが確認されたというふう聞いております。

３番でその他の対応状況でございます。こちら私どものほうで把握する範囲の中で記載をしておりますが、まずＪＲ飯田線利用促進連絡協議会でございますけれども、１１月１４日の日に幹事会が開催されまして、それぞれ情報を持ち寄って、その情報の共有を図るとともに、県内や飯田線沿線の状況についていろいろ報告がございまして、今後の対応を検討したというようなことでございます。

また、１２月１日、今週の土曜日になろうかと思いますが、正副会長会を開催いたしまして、関係する沿線自治体の長を含めて協議をするという予定でございます。これにつきましては、当地域からは飯田市、下條村、それから松川町、高森町から出席するというふう聞いております。また、広域の事務局といたしましてもこの日、出させていただきますというふう考えてございます。

それから、当広域連合の取り組みでございますけれども、飯田線につきましては、高校生の利用が非常に多いということで、各高校の担当者から状況をお聞きするという会議を１１月２１日に開催いたしました。このときには広域で場所の設定をいたしましたけれども、松川町さん、高森町さん、飯田市さんからも担当者においでいただきまして、直接お話を聞いていただいたという、そんな内容でございました。この会議の中で出さ

れた高校の担当の先生方からの御意見等でございますけれども、定期券の購入等への影響というのはあるということでございます。またさらに駅を無人化することによりまして、駅の防犯上の問題というのが非常に心配がされるということです。それから通学定期券使用のモラルの低下ということが懸念されるということです。また無人化についても御意見をいただきましたけれども、それ以上に深刻な問題といたしまして、非常に通学の中でダイヤが使いづらいダイヤになっているのかなというような御意見もいただきました。また御承知のように、来年4月から高校統合によりまして、高校の配置が当圏域は変わるわけでございます。それによりまして、通学車両、現在でも込み合っているという中で、さらに混雑が予想されまして、何らかの対応がないと電車通学というのが懸念される可能性があるというような御意見をいただいております。

最後の丸、県及び上伊那地域との連携についてということでございますが、先ほどございましたが、12月1日に開催される利用促進の連絡協議会の正副会長さんで協議をしていただくというのが、とりあえずの現在の予定でございます。

以上でございます。よろしくお願いたします。

(上澤議長) 説明が終わりました。

御質疑はございませんか。

(「なし」との声あり)

(上澤議長) なければ、説明申し上げましたJR飯田線における駅営業体制の変更については、聞きおくことといたします。

(6) 次期ごみ処理施設の整備に向けた取り組みについて

(上澤議長) 次に、次期ごみ処理施設の整備に向けた取り組みについてを議題といたします。

事務局の説明を求めます。

高田事務局長。

(高田事務局長) それでは、資料No.6をごらんいただきたいと思います。

次期ごみ処理施設の整備に向けた取り組みについてということで、現状を御報告を申し上げます。

大きくは2点でございますが、初めに施設の候補地の決定に向けての状況でございます。(1)として下久堅地区対応というふうに書いてございますが、用地につきましては評価をいただきまして、7月の中旬に候補地の評価の状況について公表がされました。8月になりまして、候補地となりました稲葉地籍に隣接をする近隣の皆さんから、施設に対する不安だとか事業の進め方について要望の声が上がってまいりまして、私も事務局と、それから管理者で対応してまいりました。今までの経過の中で評価の内容が先に公表されたというようなことで、近隣の住民の皆さんに対する配慮が足りなかったということで、おわびを申し上げるとともに経過を説明してまいったところでありました。11月になりまして、下久堅のまちづくり委員会を開催いただきまして、今後はきちっと近隣の住民の理解を得て進めていくんだということで確認をさせていただいて、それから下久堅地区内での各区での、今、勉強会を御開催をいただいております。11月18日を皮切りに、各区で勉強会を開催いただいております。12月の中旬に、再度、まちづくり委員会を開催いただき、各区の勉強会の状況の集約をしていただくというような段取りになっております。

(2) であります。こうした説明、今の状況については、広域連合会議に報告をさせていただき、また本日、議会に報告をさせていただいております。

済みません、(2)が続いておりますが、検討委員会であります。施設建設検討委員会につきましては、7月に評価をいただいた以降、地層、地質調査、断層の調査が入ったために中断がされておりましたけれども、11月27日の日に建設検討委員会が開催されまして、トレンチ調査の報告をさせていただくとともに、用地選定の評価の修正と答申案の協議をいただいております。もう既に新聞報道されておりますけれども11月27日をもって検討委員会は終了ということで、答申案のおよそのまとめと、それから附帯意見等がついて整理がされました。今後、その整理をした上で、内容を確認いただき、12月のうちには正副委員長さんから連合長へ答申がされるという、そんな段取りになってきております。

最後に今後の進め方のところでありまして、先ほど申しましたように、12月に再度、下久堅のまちづくり委員会において勉強会の集約と今後の進め方等について検討をいただきます。また、建設検討委員会からの答申を受けまして、それを受けて連合会議でもって施設の建設の候補地についての段取りをしていただくということでございまして、今後、そんな進め方をしていきたいというふうに考えております。そうした状況が整った段階で、正式に候補地としての協議の申し入れを行うという、そんなふうになっていくかということです。

それから大きな2番であります。ごみ処理施設整備計画の策定についてということでございます。先ほど申しましたように、検討委員会の長い間の御協議が終わりまして、答申がいただけるという状況になってまいりました。一方、次期ごみ処理施設の整備に関しましては、新聞報道等、ごみの処理のあり方について疑問等が提示をされておりますけれども、私どもとして、その答申を受けとめて、答申に沿いながら、今後のごみ処理のあり方についてきちっと説明をしていく必要があるのかなというふうに思っております。なぜ移転改築をするのか、どのような施設をどこにつくるのか等々、基本的な事項につきまして整理をして整備計画をまとめてまいりたいと思っております。これはこれから取りかかりますけれども、でき得れば年明け早々ぐらいには何とか整理をして、議会の皆様に報告をし、それから郡市民の皆様へ広報等を通じて説明をしてまいりたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

(上澤議長) 説明が終わりました。

御質疑ございませんか。

(「なし」との声あり)

(上澤議長) なければ、説明申し上げましたごみ処理施設の整備に向けた取り組みについては、ここに書いてありますように、確認したというふうにしたいと思っておりますがよろしいですか。

(7) 中央自動車道のり面の管理に関する要望について

(上澤議長) それでは次に、中央自動車道のり面の管理に関する要望についてを議題といたします。この件につきましては、環境・福祉・医療検討委員会において協議をいただいておりますので、その報告を求めます。

環境・福祉・医療検討委員会委員長、木下克志議員。

(木下(克)議員) 環境・福祉・医療検討委員会の報告をいたします。中央自動車道ののり面の管理に関する要望につきまして、去る11月27日に環境・福祉・医療検討委員会を開催し検討をいたしました。これまでの経過を含めて検討の状況を報告いたします。

この中央自動車道のり面の管理に関する問題につきましては、当委員会所属議員から、のり面の除草が十分でないために景観を損ねているが、1町村の要望活動では解決できないため、ぜひ広域連合会議で取り上げてほしいという意見がございまして、今年度、検討委員会で検討いたしました。

その結果といたしまして、本日、資料として配付されております要望書の内容で、中日本高速道路株式会社あてに要望活動をしてはどうかということで御提案申し上げますのでございます。

また、検討委員会では要望活動の進め方に対しまして幾つかの提案がございました。一つ目といたしまして、広域連合議会として要望書を提出すること、二つ目といたしまして、広域連合会議においても検討いただき、広域連合としての要望活動を行っていただきたいということ、三つ目といたしまして、飯田市議会も加盟しております中央自動車道恵那山トンネル等、議長会連絡協議会が毎年要望活動をしており、この活動の中で取り上げていただくこと、これらの手法が提案されております。

検討委員会といたしましては、どのような手法で行うにいたしましても、地域の声を届けることは重要であるということで集約されております。ぜひ検討いただくよう御提案申し上げますのでございます。よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

(上澤議長) 吉川事務局次長。

(吉川事務局次長) ただいま、委員長のほうから報告がございました。その中にございました要望書につきまして、事務局のほうから若干説明をさせていただきます。お手元の資料No.7でございます。本日追加で配付させていただいたほうの一番最初の分についてでございます。

中日本高速道路株式会社、ネクスコ中日本でございますが、代表取締役社長あての要望書として作成したものでございます。検討委員会の委員さんの議論を経まして、こんな形で集約をさせていただいたという、そんな内容でございます。読まさせていただきます。

飯田下伊那地域は中央アルプスと南アルプスに囲まれた豊かな自然環境に恵まれた地域であり、きれいな空気とおいしい水に育まれた農産物が生産されております。当地域を南北に走る中央自動車道は、伊那谷西側の山麓地域を南北に縦断しているため、山間地のみでなく果樹園などの農地や住宅地に隣接し、地域住民の生活環境に深くかかわっております。

近年沿道の住民から、「中央自動車道のり面に雑草が茂り過ぎて管理が十分行われていないために、景観を損ねている。」との指摘がされております。またのり面の雑草などが病害虫の発生源となることを懸念する声も聞かれます。

こうした状況を御理解いただき、下記の項目について御検討いただきますよう要望いたします。

1、中央自動車道のり面の除草回数をふやすとともに雑木類の除去を行うなど、十分な管理を行うこと。

以上でございます。

(上澤議長) 説明が終わりました。

このことについて、御質疑はございませんか。

福田議員。

(福田議員) このことについては大賛成でありますけれども、要望書の案の中で、私はのり面の全面刈り、これを入れてほしいなど、こんなふうに希望するわけでありまして。といいますのは、今現在は上のほうから2メートル、それから下のほうから2メートル、計4メートルぐらいは定期的に草は刈られておりますけれども、それ以上の大きなどうか、高い土手に関しましては、間が残っていつてしまうと、すき間ができてしまうというようなことで、せっかく刈ってみても、そのすき間のあるために病害虫の発生だとか、あるいはごみの不法投棄、そういったようなものがあるわけでありまして、全面刈りをしていただきたいと、そういうようにひとつ入れていただきたいなど、こんなふうに思います。私、たまたま委員会だったんですけれども、その日がちょうどあいにくうちのほうの議会がありまして、出席できなだために、そういうことでもありますので、申しわけございませんが、そういうことでお願いしたいと思っております。

(上澤議長) 今は、もし出す場合は、要望書の中に全面刈りという形で出すという、そういう御意見がございました。

そのほかはございませんか。

委員長にお聞きしますが、先ほど、この要望書について、この広域連合議会として要望書を出すと、もう一つは広域連合会議としても出してもらいたい、もう一つは飯田市も毎年やっております中央道沿線の5市が加盟しております恵那山トンネル等要望活動、その中でやってもらえたらという3つの方法を示されましたが、委員会としてはこちらに投げかけをしたということにとらえてよろしいですか。

木下議員。

(木下(克)議員) まず、連合議会のほうで採択いただいて要望書を出していただく、これが一つ、それからもう一つ、連合会議のほうでも検討いただいて出していただくと、もっと多様な話し合いの中で、多角的にこの要望が通じるんじゃないか、これが一つ、もう一つ、沿線の連絡協議会がありますんで、これも利用していただいて、議長に御尽力いただいておりますらいいかなど。3つの段階というか、そういう形で出していただければ、余計に効力があるんじゃないかということで、欲張ったお願いでありますけれども、提案させていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(上澤議長) 今、確認をさせていただきましたが、この内容について、先ほど福田寛議員のほうから全面刈りというふうなことがありましたが、このことについていかがでしょうか。

木下議員。

(木下(克)議員) 記の下に中央自動車道のり面のというところへ、のり面の全面刈りの除草回数をふやしていただくという形で入れていただければいいんじゃないかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(上澤議長) わかりましたが、それでは3つの要望書を出すことになるわけですね、もし出すことになれば。そういうことではございますが、とりあえず要望書を3つにかかわらず、要望書を出すと、とりあえず出したらどうだというほうを採決といいますか、方向性を出していきたいと思っておりますが、それでは要望書を提出するということについて、賛成の方は挙手をお願いしたいと思います。

ありがとうございました。

賛成多数ということでございますので、中央自動車道のり面の管理に関する要望については、要望書を提出するというように決定をいたしました。

この扱いにつきましては、先ほど3種類の方法がありましたが、これについては広域連合会議のほうにもお諮りをしなければなりませんということで、要望書を出すにしても、その方法については事務局のほうに一任ということをお願いいたします。議長、私ですか、議長一任でよろしいですね。

(「はい」との声あり)

(上澤議長) それでは、私のほうで内容を先ほど福田寛議員から出ましたようなことも踏まえて、内容を踏まえさせていただいて、議長預かって検討させていただいて、要望書を出すと、そういう方向で検討させていただくことで御確認いただきたいと思っておりますので、よろしいですか。

(「はい」との声あり)

(上澤議長) それでは、そういうことで決定をいたしました。

一応、報告としては、まだ一番大きなものがありますが、ここできぎりとして、あとの1件を除いて全員協議会の項目は終わりました。その他の項目になりますが、先ほど木下藤恒議員から、発言の申し出がございましたので、それを認めます。

木下藤恒議員。

(木下(藤)議員) 発言の機会を与えていただきましてありがとうございます。

いろいろお願いやら御提案をさせていただきたいと思っておりますが、その前に牧野連合長にお願いをしておきますが、先般の飯田市の市長選挙において、またこれから数年間飯田市長として、また連合長として私どもをリードしていただくという立場に立っておられます。どうかひとつしっかりとお願いをしたいと思っております。よろしくお祈りいたします。

また、去年のこの定例会において、私から満蒙開拓平和記念館の一般質問をさせていただきました。その結果、連合長初め、連合会議の皆様大変御理解をいただきまして、また県知事とそれから長野県を含めて大変な御理解をいただき、建設の運びとなりました。これもひとえに阿智の岡庭村長さんを初め、関係各位に改めて御礼申し上げる次第であります。私といたしましては、本当にこの地域の平和への思いが伝わってくるような気がいたしますが、泰阜村でも村長の理解がございまして、・・・をさせていただきましたし、また豊丘村さんのほうからも・・・でお話しましたが、例の・・・のツゲキもありまして、多大な御理解をいただいたというふうに拝見をいたしました。本当にありがとうございました。改めて関係各位に御礼を申し上げる次第でございます。ありがとうございました。

それで提案ということでございますが、私の認識不足かもしれませんが、この連合議会に議長会の事務局が参加をされておらないと思っておりますが、これはもともとそういう組織張りでは会がなされてたかと思うんですが、その辺のところの前のところはわかりませんが、連合議会と議長会、町村議長会、各町村の議長さんがこの連合会議にはそれぞれ御出席人として御参加をされておるわけでございますので、この流れというものは当然わかっておられると思っておりますけれども、事務局がどうもわかっていない、当然、同じフロアの中におられますので、それぞれのお立場から連絡はとり合っておるのかもしれない

せんが、何となく私の感じでは風通しが悪いなというふうに思っております。そこで、もし議長会の事務局、これは町村会と連動しておると思いますが、この事務局をこの連合議会にオブザーバーとして同席をしていただいたらいいかなと思っております。それはオブザーバーと。それはなぜかと言うと、今、きょうも連合長からもいろいろ説明がありましたし、私どもも承知しておりますが、これから10年、15年の間に、リニア中央新幹線、それから100キロ道路と言われておる三遠南信自動車道、それから、今、話題になっておりますごみ処理施設、それとまず地域住民の福祉だとか、あるいはそのほか生活環境の問題だとかいうことを幅広く協議をしながら、力強く連携をして、この地域のために我々が働く、そういう目的は連合議会も、それから町村の議長会も一緒だと思うんです。組織は別ですが、それぞれの目的を持った組織は別だと思いますけれども、最終的な目的はこの飯田下伊那地域、伊那谷のためにという最大の目的があるわけでございます。そんなことから、オブザーバーとして同席をしてもらったら、お互いの風通しがよくなって、連携して地域の発展のために貢献できるんじゃないかなというふうに私は考えたわけでありまして。もしそれがだめだとすると、これは私もその理由をお聞きしたいと思いますけれども、一緒になって地域のためにやっていくということになれば、事務局もオブザーバー参加でもいいと思っておりますので、この会議の流れを承知しておっていただくことも必要だと思っております。何かちょっと違和感を持っておるようにも感じておりますので、その辺のところを御理解いただいて、もしこのことに賛同していただければ大変ありがたいと思っております。私からの提案でございます。よろしく願いいたします。

(上澤議長) 高田事務局長。

(高田事務局長) 提案をありがとうございます。

広域連合事務局と、それから町村会の事務局は合同庁舎の5階で一緒に席を並べておりますので、例えば広域連合会議、あるいは町村会の定例会には事務局がそれぞれ出させていただいております。そういう面で、決して意思の疎通がないという状況ではないというふうに思っておりますが、ただ議会の面では、私ども広域連合の事務局が、例えば町村の議長会のところへというのは今まで参加をした例はございませんので、そういう点も含めて少し事務局同士で相談をさせていただいて、この広域連合の議会に町村会の事務局、あるいは議長会の事務局がオブザーバーで来ていただくことは全然やぶさかではございませんので、それはぜひ日程の合う限りは、そのように取り計らってもらいたいというふうに思っておりますので、よろしく願いいたします。

(上澤議長) 木下藤恒議員。

(木下(藤)議員) ありがとうございます。

ぜひともそういうふうにしていただいて、力強く地域の発展のために、私どもも協力していきたいと思っておりますし、ぜひともよろしくお願い申し上げます。大変ありがとうございました。

(9) 平成24年度議会日程について

(上澤議長) それでは次に、会議次第の順序を変更いたしまして、9番の議会日程についてを議題といたします。

説明を求めます。

北原書記長。

(北原書記長) それでは、平成24年度議会日程についてお願いします。

次第の(9)にございますように、平成25年南信州広域連合議会第1回定例会を平成25年2月21日木曜日を予定しております。よろしく願いいたします。

(上澤議長) 説明が終わりました。

議会日程について、何か御意見ございますか。

(「なし」との声あり)

(上澤議長) なければ、議会日程については事務局の説明のとおり御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

(上澤議長) 御異議なしと認めます。

したがって議会日程については、事務局の説明のとおり決定いたしました。

ここで、会場の準備のために、一旦休憩といたします。

(高田事務局長) 済みません、お願いいたします。

次第の(8)リニア将来ビジョンの具体化ということで、本日、視察研修をいただいた3つのコースの報告の資料をつくってございますので、これから後ろのスライドを見ていただきながら、報告会を開催してまいりたいと思います。

少し会場レイアウトを含めてちょっと整理をいたしますので、4時開会ということでお願いいたします。

それから、3コースの発表いただける方、申しわけございませんが、この辺へちょっと3人お集まりいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

ちょっとレイアウトを変えますので、よろしく願いいたします。

(上澤議長) これからの進行は事務局に一任いたしますので、よろしく願いいたします。

(8) リニア将来ビジョンの具体化について

(高田事務局長) それでは、会場準備できましたので、ただいまから研修施設の報告会をお願いしたいと思います。御承知のように、Aコース、Bコース、Cコース、3つに分かれて、東北南部、九州、それから東北北部ということで御視察をいただきました。それぞれのコースの説明をいただきながら、またそれぞれのコースの参加者の皆さんに補足をお願いしたいというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

それでは始めてまいります。Aコースにつきまして、喬木村の大平村長さんに発表をお願いいたします。よろしく願いいたします。

(大平喬木村長) それでは、Aコース、13名の方にお世話になって行ったわけでありまして、これからごく簡単に御報告をしたいと思います。

Aコースの視察箇所でありますけれども、まず福島を経てくりこま高原駅、それから一ノ関駅、水沢江刺駅、それから北上、それから北上市の駅前開発をヒアリングをしながら北上駅を見て、最終、新花巻駅まで視察をしたと、そんなコースであります。

東北新幹線の歴史は今さら申し上げるまでもないんですけども、昭和46年11月に起工して57年6月に開業されております。その後、上野から大宮間経まして、国鉄からJR東日本に移管したということで、平成2年3月にくりこま駅が開業されております。その後、見たとおりでありまして、平成22年12月には八戸から新青森まで開業されたというところであります。

くりこま高原駅であります。これは宮城県の栗原市にあります郊外型の設置型の駅であります。これは平成2年3月開業したわけでありまして、

次、お願いします。これは8年後の平成2年に開業したわけでありまして、市街の中心部から4キロほど離れておりまして、栗原田園鉄道の駅からも離れておるということで、インターチェンジからも3キロほどの距離がありまして、駐車場の収容能力が非常に高いというところでありまして、これ、くりこま高原駅、ごらんのとおりの周りは田んぼであります。それでインターチェンジから先ほどもありましたように3キロの距離があつて、宮城県北部から仙台方面へ向かう人が多いということで、通勤の利用客が多いということでありまして、

ここには東口にくりはら振興株式会社が運営します栗原交流プラザというのがあります。左端に建てておる38メートルのタワーと、それから右、くりこま高原駅であります。何か・・・、これはタワーがあつて、展望レストランがあつて、当日は開店休業でありまして、中まで行けませんでしたが、あんまりどうもはやっておる様子もありませんでした。そんな施設もあつたり、ホテルもあつたり、駅の中にくりはら交流プラザというのがありまして、そんな内容のものも設置をされておりました。駐車場も非常に広くて、東口、西口、両方にあるわけですが、有料と無料とあつて、785台収容できるということだそうでありまして、料金的にはここに掲げたとおりであります。

西口のほうにここ3年ほど前に大型スーパーイオンが完成をしておりまして、車の台数も非常に収容能力もあるということで、かなりにぎわっておるような様子を確認できました。それから駅の構内にはやはり栗原市の観光課というのがありまして、観光物産協会の事務局が駅構内の中に設置をされておりました。

これはバスの発着所でありまして、市民バス、それからミヤコーバスということで、それぞれ東北本線石越駅とを結ぶ路線が運行されておるということでありまして、

また西口にはタクシーのプールがあつて、それぞれかなりの台数が待機をしておりました。

次は、一ノ関駅であります。これは一関市、12万7,000人ほどの市でありますけれども、現駅併設型の駅であります。東北本線、それから大船渡線が接続しておりまして、その大船渡線の起点となつておる駅であります。57年の6月に開業しておりまして、現在、平均の乗降客は3,600人ということだそうでありまして、

これ、一ノ関駅は明治23年に開業した駅だそうでありまして、岩手県南部の主要都市、観光地の出入り口としての役割を果たしておりまして、最大のターミナル駅と、そんな機能をしておるそうでございます。そういうことで、東北本線については、寝台特急を除いては余り運行されておらないというのが現状のようでありまして、

一ノ関駅、ごらんのように現駅併設ということでありまして、右側が新幹線をつくつたところでありまして、参加者全員もあんなようなメンバーで行つたわけでありまして、東口はバスの乗り場が10番乗り場まであつて、多くの路線が運行されておるというところでありまして、

一ノ関駅、ここに書いてある駐車場3カ所あつて、263台ということで、現駅併設にしては多い駐車場だなということで見えてまいりました。西口の駅前にはホテル等もありまして、一ノ関の駅前の様相であります。これは東口前にNECの工場がありまして、

工場まで行ってきてませんので、どの程度のものだということにはわかりませんが、この写真から見てもわかるように、非常に大きな工場だということでもあります。くりこま高原駅、それから水沢江刺駅とは異なりまして、要するに中央に通過線があるというように、ホームに可動式の安全さくがないわけでもあります。先ほどのくりこま高原駅が2車線だけでしたので、通過する車両も物すごい風圧でありますので、地下鉄にあるようなあいつた可動式の安全さくが設けられておりまして、安全を保っておったということでもあります。

水沢江刺駅であります。これは合併して奥州市になったわけですが、12万4,000人になる郊外設置型の駅で、これは全額地元負担の請願駅ということで、東北新幹線開業から3年後の昭和60年に追加設置されたという駅であります。1日平均905人ということでもあります。

上空から見た写真であります、これ本来、当初は新水沢駅という予定であったのですが、すぐ北側に境界があるということで、鉄道のない江刺の名前を入れてほしいとの要望があつて水沢江刺駅というものになったそうでもあります。平泉駅にというような声もあるようではありますが、現状はこんな状況であります。

この駅、北上川を挟んで、奥州市の都市計画の中では東西道路を整備する中で水沢江刺駅と、それから水沢市街地の連携を強化することが課題に挙げられておるといふところであります。これが、今、話にあるので、都市と農山村との連携軸の形成を促進するために市街地と新幹線駅を結ぶ新橋を含む東西道路の整備促進について取り組みをするんだという構想がなされております。

ここも西口、東口、あるわけですが、ここにあるとおり請願駅であるという碑ができております。この駅は南岩手の新たな発展を願い、住民の熱意と協力により建設されたものであるということでもあります。南部鉄のやかんがそこでモニュメントとして掲げられておりました。今まで見てきたくりこま駅からたどって、なぜか銅像が好きだそうで、各地の駅に銅像が1つずつぐらひはありますから、東北のほうはかなり銅像が好きだと思つて、モニュメントは当然ありましたけども、そんなことでここも現駅併設ではありませんけれども、そういうことで現在進めておるといふ駅であります。

それから駅の周辺、当然駐車場が非常にありますけれども、周り、ごらんのように田園地帯でありますので、土地は限りなくあるといふところで、どうにでもなるなど見てまいりましたけれども、田んぼの中にぽつんとあるといふような駅であります。

駅のホームの中に南岩手の交流プラザというのがコーナーにありまして、先ほどの南部鉄のだとかいったたんすでありますとか、そういうものが観光物産の有名なものでありまして、展示をされておりました。

先ほども申し上げましたけれども、通過車両があるとかかなり風圧が物すごい強い風圧であります。それを避けるために可動式の安全さくがホームに設置されておりました。

次に、北上市であります。これは次の日になったわけですが、ここへは市役所のほうへ出向いていきまして、それぞれヒアリングをした内容をまとめてございます。北上市は面積的には437平方キロということで、341億円の予算でやっておるといふような内容でありました。いろいろごちゃごちゃ書いてありますけれども、よくごらんいただければ、もうすぐ理解できるのではないかなと思つておりますので、次お願い

します。

この駅前開発事業につきましても、昭和46年10月に北上駅の設置の決定に伴いまして、49年から駅前地区の約6.5ヘクタールについて再開発事業を調査、実施をしまいいりまして、1.9ヘクタールを事業区域ということで決定をして進めてきたと。その後、2ヘクタールということで、駅前店に大型施設のイトーヨーカドーを誘致するショッピングセンターをということで、あわせて駅前広場の公共施設の工事を発注して、再開発ビルは昭和61年にオープンをしたわけでありまして。しかし平成11年1月、1年後に契約解除をする旨のキーテナントより通告があったということで、平成12年1月には既に、これ、閉店と。これに伴って中にあった40店舗がすぐに撤退をして、最終的には入居率が5%になってしまったということでありまして。せんだって見に行ったときはそうでしたけれども、4月に北上市で借り受けて、一角を北上市の生涯学習センターとしてビル内にオープンしまして、その中に市内の保育園でありますとか、子育て支援センター、ファミリーサポートセンターを同ビルの中に移転をして、それから1階がたしか直売でありますとか、そういった営業されておりましたけど、そのほかは現在、個人病院とか法律事務所、入居率が95%まで回復されておるということでありまして。その画面にもありますけれども、これは前後しましたけれども、議長さん等が見えていただいで挨拶をいただく中で、建設部の都市計画課の職員の方よりお話を伺ったわけでありまして。いろんな細かいお話をしてくれたわけですがけれども、かなり年数を経ているということで、現在の担当者もそれなりに説明をいただいたわけでありましてけれども、建設当時からではありませんので、曖昧な面もありましたけれども、概略は理解しておりました。

次お願いします。先ほど話した駅前の再開発ビルであります。これが現在は95%以上テナントが入ってにぎわっておるわけでありまして。右上は1階部分だと思っておりますけれども、今、飲食街だとかそういうのを整備しております、大変駅前の一等地であります。下段にあるのは立体駐車場があるわけですがけれども、ホテルも破綻してしまったというようなことで、現在、飲食店街へ改装工事を進めておるといのが実態でありました。駅前再開発の現地視察でありますけれども、先ほどお話ししました北上市で借り受けて、1階フロア全部借りておるわけでありましてけれども、そこに生涯学習センターというのを設置をしまして、その中にNHKの文化センター北上もありましたし、子育て支援センター、いろいろ用意をされておるようであります。市内の皆さんが有効に利用されておるとい、そんな状況でありました。

これは北上駅の様子であります。東口であります。現駅併設ということで、東北本線と、それから北上線が接続しておるところであります。飯田駅も現駅併設というお話でしたけれども、これだけのもの、これだけの大きさ、長さのものがここへぽこっとできるということになると、えれえことだったなということなんですけれども、できるわけじゃない話で。現駅併設はある程度の余裕がないとこれはできんなど、そんな感じを持って見てまいりました。それにしてもそういうところでもあります。

北上駅、今もお話ししましたけれども、ちょうど一ノ関駅と盛岡駅の間駅の水沢市と花巻市とで争って、誘致競争に勝利して設置が決定したわけでありまして。そのことがその後の水沢江刺駅と新花巻駅が請願駅として設置される引き金になったということでもあります。そんな状況も歴史的流れもあるようであります。

北上駅の状況であります。これが東口であります。そして駅の地下でありますけれども、左下にありますけれども、西口と東口の地下通路をつくる必要があるということで、立派な地下通路ができておりました。当日、平日でありましたので、本当、人通りもあるとおりでありまして、閑散としておりました。周辺にはホテルが次々と出てきておるということでありますけれども、一方では破綻をしておるホテルもあるということでもあります。

北上駅、立体駐車場、東口にも347台収容の立体駐車場があると。料金はごらんのとおりであります。そういうことで、駐車場もかなり完備をされておりました。

いよいよ最後であります、新花巻駅であります、これは花巻市の郊外に設置をした駅であります。釜石線と接続をしておる駅でありまして、1日の乗車人員が794人ということだそうです。

これは花巻市の中心地であります東北本線の花巻駅周辺から北上川を挟んで4キロ以上東にある駅であります。東北自動車道の花巻ジャンクションから釜石自動車道が分岐をして、岩手花巻空港があるわけでありまして、岩手県の交通の要衝となっております。

これも水沢江刺駅と同様に、全額地元負担の請願駅でありまして、3年後の昭和60年に追加設置をされたという駅であります。駅の西口にあります設置経緯を刻んだ碑であります。後ほど文言も出てきますけれども、つい立てでびょうぶのような碑でありますけれども、思いが切々とこれに刻まれておりました。それから右側の下には宮沢賢治の彫刻碑などもありましたし、賢治の生まれたところということで、そんな内容のものもモニュメントとしてありました。

さて、こういうようなことが先ほどの駅設置の物語であります。今は読みませんが、それぞれ同じような内容のものがそこに印刷されておりますので、ぜひ設置の物語、本当に大変御苦労した内容が書かれております。それぞれ多くの皆さんから御寄附をいただく中ででき上がったんだということと、14年と二百数十回の陳情を重ねてこの駅ができたということでもあります。地元の皆さんの本当の熱意があらわれておる碑だと思います。末永く伝えたいということで、この碑が建立されておりました。

新花巻駅であります。手前が釜石線の駅の一部であります。そういうことで釜石線と、それから西口の道路と駐車場であります。駐車場は基本的には無料ということでありまして、右下にもありますけれども、完全に舗装されていないところが無料だなど、そんな感じで見えてまいりました。駅前に立派な駐車場があります。

これはきょうの資料の中にも載っておりますけれども、それぞれ視察をした駅の1日の乗車客の平均人数を載せてあります。私たち伺ったところは、一ノ関、それから北上等は現駅併設ということでもありますので、当然、やはり1日の乗車人数も多いわけでありまして、くりこま高原、水沢江刺、新花巻等はやはりがくっと乗車客も少ないわけであります。行って感じたことは、やっぱり郊外型の駅は非常に田園地帯に開設したということで、面積的には非常に広いところで、これから何をすることもできるなという感じを受けてまいりました。現駅のところは本当にどこでもそうだと思いますけれども、あれだけの大きさの併設をしたということで、並々ならぬ事務局側もいろんなことがあったのかなということが想像されたわけでもあります。どっちにしてもこの地帯と東北のほうと比べますと、非常に耕地、耕作面積も広いところへ中間駅ができるというこ

とで、なかなか大変なことだなということを感じておりますけれども、飯田線、それから路線バス等、これからのこういったアクセスをどうするか、それから交通網のアクセス道路をどうしていくかということが非常にこれから重要な課題になってくるのかなということも感じてまいりました。それとまた、これから15年後ということでもありますけれども、普通乗りおりはしておったんですけれども、駅の外へ出て、東口、西口等を改めて見てみますと、やはり広大な敷地が要るなということを感じてまいりました。やっぱり上下、下伊那と言ったって、長野県のやはり駅ということになりますので、その辺もやはりこれからそんな面も含めて考えていけばいい駅になるかなという、そんな感じを持っております。

えらい大した報告にはなりませんけれども、Aコースの報告とさせていただきたいと思います。大勢参っておりますので、補足をする面がありましたら、Aコースへ参加された皆さん、よろしく願いいたします。

(高田事務局長) ありがとうございます。

ちょっと時間が経過しておりますので、次はさっそくBコースへ。Bコース九州コースで発表者は伊壺敏子議員。

(伊壺議員) 皆さんこんにちは。

私たちBコースはそうそうたるメンバーで行きました。町村長さんたちが多くて、議員の数のほうが少ないんです。その中で平の議員がきょうは安受け合いをしましたんで、御報告をさせていただきます。後からしっかり補足してもらいたいと思いますので、よろしく願いします。

最初に視察箇所ですが、最初に玉名市の市役所でヒアリングをし、その日に新玉名駅を見ました。それで戻って筑後船小屋駅を見てというか、乗ったりおたりと、そういう状況で見て、それから新鳥栖駅を見て、それで5番目に鉄道・運輸機構の九州新幹線の長崎ルートの方の関係もお話を聞いて、その残土処理をしている嬉野運動公園を見て、最後に鳥栖市のヒアリングをしたと、こういう順序で視察をしました。

九州新幹線ですが、23年3月に鹿児島ルートが全線開業をいたしまして、今は長崎ルートの工事が始まったという状況です。

これが最初に行きました玉名市役所のヒアリングと記念撮影です。玉名市は人口が7万人弱のところでした。あとはパス。新玉名駅ですが、全容はこういう形です。これはちょっと余りよくわかりにくいので、次の写真をお願いします。非常に広い田園の中にできた駅です。郊外型の駅です。市がかかわってこのつくったところへ駅前広場と称して観光交流センターとか交通広場、駐車場、公園、道路という形で市が整備をしましたが、あとのこの広い農地については、一切用途指定も何もかかわっていません。地図にはないと思うんですが、開発がもう始まっておりまして、大きい電機メーカーでケーズデンキがもう建ってしまっていて、もう1つホームセンターが既に工事を始めていました。

これは周辺の駐車場やタクシー乗り場ですが、行ったときはこんなに車はとまっていませんでした。これは駅の構内で、土産屋、喫茶店などがありました。こういう形で新幹線の駅をつくるときに、開業前からこののぼり旗もつくってイベントをしたりPR活動を展開したというお話でした。

次は、筑後船小屋駅ですが、ここは4万8,000という余り大きくない市で、これも郊外型設置型の駅です。ごらんとおり、これは緑のところはずっと広い公園でして、

公園の中に駅がつくってあるというようなものです。ここに書いてありますけれども、在来線鹿児島本線と接続しておりまして、在来線の駅が平行にありました。500メートルほど離れたところに新幹線の駅もつくったということで、目の前に在来線の駅があって、新幹線の駅があるというような状況です。本当に広い公園の中につくってありまして、その公園から見たところ、済みません、次行きます、あそこにありますが、芸術文化交流施設等もできていました。これが在来線の駅です。

次、お願いします。これは鉄建機構のお話でした。ここで視察をさせてもらったんですが、武雄市に泊まって、武雄に事務所がありました。ごらんのように長崎ルートについては、この新鳥栖から武雄温泉のここまでを在来線を使って、ここを改良して新幹線を通すということで、何かフリーゲージトレインというものの購入で、今、線を改良してスピードを上げるようにするという話を聞きました。フリーゲージというのは、何か車輪が広がったり縮んだり、そういうような新車両でやるということです。

これはよくわかりません、難しいです。こういう専門的なことなんで、また見ておいてください。

これは残土をここに積み上げて、これは嬉野市なんですけれども、積み上げてここを公園にするということで、もう公園の部分は充分できておりました。のり面もこういう構造物をつくるということで、あちらさんのお話では、植生もして完成後の景観も配慮をしてやるんだというお話が出ました。

これはダンプが入ったり出たりするのに、あそこに水のプールをつくって、道路を汚さない配慮とか、それからこのゲートというのは、あれが上ったまま通らないように、このゲートを通るためにはちゃんとおろして通らないといけませんよという条件のものでした。配慮をしているというようなことです。

ここはまた違うところなんですけど、同じ嬉野市なんですけれども、運動公園ということで、しっかり洞を埋め立てて、この広い駐車場ということでしたけど、公園の近くにも公園があって、広い駐車場にしていました。私たちが立っているところは、もう埋め立てて駐車場になっているところなんです。

あと、鳥栖市の市役所でヒアリングを受けました。右側の写真は岡庭さんです。私たちの視察グループは岡庭さんが責任者で、副を上澤さんがやられたんで、今、御挨拶をしているところです。

鳥栖市は現在7万人ですが、本当にここ何年かで5万人が7万人にふえたということです。それから将来は10万人を目指すという、非常に発展をしている都市です。

これが新鳥栖駅の概要ですが、次行っていいです。新鳥栖駅というのは長崎本線と、それから今度は新幹線ができたんですが、新幹線と十字に交わっているというところなんです。ただ在来線の駅にも併設しているというように、十字に併設しているというような駅でした。

済みません、次お願いします。ここは何が特徴かという、駅を併設する予定地を土地の区画整理事業をやると。その中に駅を建てるということで進められました。だから区画整理事業なので、余り広い土地を使わずに、もう駅のすぐそばは民間の住宅が建っているというところでした。次、済みません。これ、全体の図ですが、駅周辺にはこういう形で駐車場がありました。だから大駐車場というのではなくて、幾つも駐車場を駅周辺につくっていると、そういう感じです。ここは観光案内所です。先ほど区画

整理の話をしましたが、区画整理の減歩率を39%という形で、非常に減歩率を高くして、その土地で九州国際重粒子がん治療センターという立派な建物を建ててありまして、最先端のがん治療ということで、この鳥栖市の首長さんが戦略的にもそういう目標を持ってこれを誘致して建てておられました。それでも実際に患者さんたちがどんどん来ると。その駅前にはホテルの建設予定地も既にここにできていて、このホテルもそういうホテルになるんだというふうに思いました。

そういうわけで、玉名市のように全く開発について規制も何もかけずに、全くそういうことを考えない駅の設置と、ちゃんと鳥栖のように区画整理をきちんとして用途指定もしての駅建設と、あともう一つ筑後船小屋市のように、これも開発をもできない立派な広い公園の中に駅をぽんとその中につくるというような、本当に特徴的な3つの駅を見させていただきました。全て郊外設置型の駅でしたが、やり方はいろいろあるなというふうに思いました。

以上です。ありがとうございました。

(高田事務局長) Bコース何かどなたか補足があれば。

(下平豊丘村長) 武雄の鉄道建設事務所のヒアリングの中で、いわゆる土砂を運ぶための道路を幾らか手直しをするのかなという話を聞いたところが、JR九州は全く直す気はないと。そういうことで、例えば大きい車が回るときにちょっとだけコーナーがいるようなときは、それは埋立地を使うけれども、既存のちゃんとした道路を土砂を運ぶために直す気は全くありませんということをはっきり言われておりました。ちょっとそれだけ伝えておきます。

(高田事務局長) 1個だけ補足しますけど、鳥栖の区画整理は減歩率が本当40%弱で、保留床をしっかりためて、保留床を重粒子センターに売り払って区画整理でもうけたというようなイメージです。

玉名市は何のイメージもなく区画整理だけやったというイメージでした。そんなちょっと乱暴な言い方ですけど、非常にその目的、先ほどあったように、はっきり何か目標を定めて区画整理をやっているというのが鳥栖市の考え方だったというふうに思います。

よろしいですか。

(岡庭阿智村長) 全体的に鳥栖と玉名市と非常に対照的なんです。玉名市は本当に都市開発計画もなしに区画整理だけやったところ。必要なところだけ市が用地を開発して、あとのところは区画整理をやって、あと民間に任せるというふうにしたら、ケーズデンキが出てきて、多分あそこには大型店のようなスーパーのようなものが左側の畑のようなところへ、民間の中で売買でつくられていくんじゃないかと。

それから鳥栖の場合は、非常にコンパクトに駅前のところだけ市が開発して、それも非常に目的を明確にしてやって、減歩をしたところで浮いてきた土地は、この重粒子線の最先端の医療機関にするという形。鳥栖市全体が御存じのようにサッカークラブができたりいろいろしてまして、鳥栖市全体の市の全体の鳥栖市の鳥栖駅というのがおもしろかったんです。鳥栖駅の前での再開発も含めながら、鳥栖市全体の再開発を行った中で、その一環としてこの新幹線駅前をどうするかというので、非常にコンパクトに効率よくやってきたというのが印象でありました。

以上です。

(高田事務局長) ありがとうございました。

それでは次へまいります。Cコース、東北北部のほうですが、発表は豊丘村の下平議長。(下平豊丘村長) それではしんがりてCコースを報告いたします。

Cコースは21名で最大の遠征になりました。お願いします。新青森から始まりまして、七戸十和田、八戸、二戸、それに新花巻を見てまいりました。そのうち七戸十和田と二戸でヒアリングを受けてきました。お願いします。こんな形で、今、新青森は東北新幹線の終末になっておりますが、北海道新幹線が開通しますと中間駅になるという状況でございます。お願いします。この駅をつくるには、場所、郊外駅になっているんですけども、旧国鉄は現在の新青森駅を推し進めると、しかし地元では旧駅に併設をということをやっておりましたけれど、いろんな絡みで最終的に郊外へ物すごい大きな駅がつくられてしまったというのが実際なのかなというふうに思います。ここが中の、これ、東口への通路でございます。これ、新青森も東口、西口にそれぞれでございます。お願いします。駅の中で1階でございます。土産物店等があります。もちろん食事もできるところもでございます。お願いします。これが2階でございます。青森を代表するねぶた等が出迎えてくれております。そして地元の観光情報等もする情報センターもできております。お願いいたします。これが東口でございます。新青森は昨年12月にも行く機会がございましたけれど、この売り地の看板は出ておりましたが、その後、1年近くたっているにもかかわらず、全然動きがありません。売れたというふうに幾区画かなっておりますけれど、建物は1つも建っていないという状況でございます。東側の2階から見た東口も、言ってみれば閑散とした旧市街へつながる路線バスとかタクシーなどが駐車をしている、一番上は東口の正面のほうの駅全体の絵でございます。この東口はこういうことですけど、西口に行きますと、駅に負けないような非常に大きな駐車場がございます。冬は雪のために使用できませんけれど、有料であります。実際にエレベーターも2基もつけて整備をされておりますけれど、とまっている車が非常に少なく、これでやっていけるのかなというふうに思いました。お願いします。

次に、七戸小和田を見て、そしてヒアリングを受けました。これは人口1万6,000という郊外型の駅でございますが、大体七戸の町の中には鉄道が走っていませんでした。全て主には自動車、バス等が交通の主要な手段でございましたけれど、七戸の中心市街地よりか若干離れた郊外につくられた駅でございます。そして無料の駐車場、600台を使っておるようですけど、その利用もあって、当初の予想した利用者を上回っている、そして十和田観光としての玄関口で、七戸だけでなく十和田というのもつけてやったことによって、非常に大きな観光も含めた取り組みがされているという状況でございました。お願いします。

これが七戸十和田の状況でございます。2階部分が列車からおりますと、それぞれの、後ほど出てきますけれど、観光施設等がある館へもつながるというふうな状況で連絡がとれております。お願いします。

これも駅の中の様子でございます。右上が観光施設の中にあるイベントを行うコーナーでございます。左のほうには地元の物産等も売られているコーナーがございます。お願いします。

それで駅舎のデザインですが、新青森、それから七戸十和田、八戸、二戸、ほとんど似たような形の駅舎でございましたけれど、実際にこういう形になったのには鉄道の運輸機構から3つの案が示された中から七戸十和田は選んだというふうに言われておりま

す。それは自動的に駅の利用見込み客数等によって3案が示されるということで、それをより使い勝手のいいようにしようとすると、その施設を設置する費用とか、あるいはそれをどうしても設置をしてつくれということになりますと、それを利用するための費用も負担させられるというような状況で、そんな制約の中で現在の駅ができたということでございます。お願いします。

そしてこれが七戸十和田の駅を中心にした区画整理事業と、まちづくり事業等がやられております。48億4,400万ぐらいかかっておりますが、その中身を見てみますと、区画整理で15億6,000万、そしてその他の駅前周辺地域の開発に32億4,800万、合計で48億4,400万でつくったそうでございます。これ、それぞれ東口と西口に駐車場も配置をし、それから東口のほうには大型店を誘致しております。駐車場の関係については、いろいろと進めていく中で、やっぱり有料ではなくてぜひ無料にさせていただきたいということが出ていたようでございます。ちょっと次へ進めてください。

先ほども言いましたように主な整備、北、南駅前の広場とか駐車場、都市計画道路、上下水道の整備とか公園の整備等もやって、先ほど言ったようなお金をかけて整備しております。

ただ、周辺整備の中で、やっぱり宅地もつくられておりましたけれど、そこはまだこれからさらに開発が進んでいくのかなという状況でございました。次、お願いします。

先ほど言いました48億4,400万、これをできるだけ有効な財源ということで、合併特例債等も活用して、ここにあるように国庫補助金、それから県の補助金、起債、一般財源はここに示してあるように1億426万2,000円ということで、保留地の処分、これが2億1,800万余でございますが、平均単価で1万7,700円で売れて、非常にそういう点では事業を進める上で大きな財源になったということでございます。次、お願いします。

この駅に、先ほど申しましたように、まちの観光交流センターが併設をされております。これ、1階は事務室とか地域情報コーナー、イベントホールやトイレ等がございます。先ほど一番最初に出てきたところでございます。2階には駅舎との連絡通路とか、軽食、喫茶コーナー、待合室等がございます。この観光交流センターをつくったのは、駅前へ来ても、観光で来た、特に大型バス等で来たお客さんが休息をする場所もないということで、そういうものも含めて観光交流センターをつくっておもてなしをするということでございます。次、お願いします。

主に観光の面ですが、この地図にありますように、七戸十和田を中心にして、つきでたほうには現六ヶ所村、風力発電でも有名でございますが、原発の残りがすを処理するというところでも有名なところでございます。そして最大の観光資源は十和田湖、そしてその奥入瀬溪流ということになっております。これはもう全国的にもこの地域は観光で売れておりますので、それぞれのJRや都内のJTB等も商品企画化も進めて、大きな観光の売り込みがつけられているということでございます。

ヒアリングの中で、駅名に十和田というのをつけるか否かの論議があったけれど、最終的にはそういうことに決まった段階では異論もなく、今は広域的な、十和田湖も含めた観光としての役割が果たされているということでございます。

駐車場の利用の状況ですけれど、これは六ヶ所村へのサラリーマンとか県庁の職員等、

かなりの部分がビジネス関係の方が利用をしていると。観光の関係で二、三割ではないのかということでした。

なお、トンネルの発生した残土について参加者から質問をした中で、鉄道運輸機構から提案があり、養護学校のグラウンドや牧場、駐車場、多目的広場やゲートボール場として利用をしたと。基本的には民間で残土を利活用したという状況はなかったというような報告でございました。次、お願いします。

市の中心地域は開業前から落ち込んでいたようでございますが、その波及効果はそんなに大きくはない、そして産業立地にも取り組んだけれど、実際には新たな企業誘致にも結びついていないし、十分ではないと。ストロー現象ということについて何うと、無料駐車場をとめて、青森市民や八戸市民も自動車を駐車場にとめて東京等へ行くというようなことが行われておって、基本的にはそんなに七戸十和田に関してはストロー現象ということが防いでいるのではないかというような報告でございました。次にお願いします。

次に八戸ですが、これは駅に併設した駅でございますが、八戸の中心はこの駅とは違った本八戸駅がございますので、ちょっと郊外でございます、ただ、駐車場等もなく、余りそういう点では近在からこの新幹線駅に来るといふような波及効果は生まれていないのかなというふうに見えました。駅前も余り開発が進んでいるというのではなくて、この八戸の場合には、逆に駅前にホテル等があるというような状況でございました。次お願いします。

この八戸ですが、24万の人口で現駅併設型ということでございました。八戸駅は市の中心部から西に5キロほど離れた市中心部の最寄駅は先ほど申しましたように、八戸線の本八戸駅がそうでございます。次お願いします。

これが八戸駅の状況でございます。これが東口の入り口、東口のほうが言ってみれば正面でございますが、一番上がその入り口でございます。2階への通路で、八戸駅の2階から見ますと、こんなような外観が見えております。お願いします。これも駅の中の状況でございます。お願いします。

次に、二戸駅でございます。これは旧国鉄で、今は岩手銀河鉄道の第三セクターの鉄道の駅と併設をされた駅でございます。これが岩手銀河鉄道で、その左手のほうにちょっと高く見えているのが新幹線の駅舎になっております。その上が連絡通路でございます。お願いします。その状況でございます。左上は駅前東側のところから見たところでございます。左下が、これは新幹線の駅の状況でございます。右上は駅の中にある商店等でございます。それから右下は、これが新幹線への入り口の改札口のところでございます。お願いします。

これが駅前の様子でございます。二戸駅は市の中心はこの右手、タクシーのとまっている先に町並みはずっとちょっと下り坂で、下っていくと旧市街地があるようでございますが、駅前にあったホテルは営業を中止しているというふうなことで、ちょっと寂しい様子でございました。お願いします。

これで八戸は土地計画整理事業を88.4ヘクタールにわたってやって、総事業費は32億7,000万余、かなりの投資をして土地整理事業を行っております。この地図にもありますように、真ん中にちょっと細長くずっとあるのが土地区画整理であけて新幹線を真っすぐ通したということでございます。それにあわせて駅前の広場とか駐車場、

そして道路、そして後ほど出てきますが、広域観光物産センター等の敷地も生み出して進められたようでございます。次お願いします。しかしこの区画事業は平成8年から42年、清算期間含むですが、予定をしておりますけれど、どうも計画どおり終了するのは困難ではないかというふうに報告がございました。現在でも事業については議論となっていて、面積はできるだけコンパクトにしたほうがいいですよということでございました。

駅の開業に向けては市民の会が設立をされて、3億円の目標のところ、3億5,000万が集められて、市民の大きな盛り上げの中で駅が実現したということでございます。お願いします。

土地区画整理事業に対する地権者グループができてきましたけれど、表立った反対はなかったということです。説明には何度も足を運び、ある程度の賛成を得ることができたため、事業に踏み切った、主な反対事由は農地が減少することによる経営不安が反対理由だったそうでございます。企業誘致は進めようと思って取り組んでいるようですが、この面でも二戸も進んでいないということでございました。ここでは七戸十和田と違って、都市部との時間距離が縮まり、ストロー現象が発生しているということでございました。次お願いします。

これ、この地域の三遠南信の取り組みと同じように、二戸を中心にして、秋田、岩手、青森の3県が一緒になっての広域的な取り組みを進めております。それに向けて、二戸へ向けての4つのルート、ちょっと地図が小さいわけですが、日本海側の久慈市、あるいはちょっと八戸寄りになりますけれど、種市市、それから十和田湖、それから角館へ向けての4本のルートが整備をされて、もともと二戸が交通の要衝で車が集中するようになっていたようですが、そのことによって、一層二戸への集中度が高まったということでございます。

駐車場については、無料という要望はあるけれど、今のところ2時間までは無料で、その他、1日200円で有料にしております。また月決め、これが今、月4,000円だそうですが、30人ほどが予約待ちをしているというほど盛況のようでございます。380台の駐車場は、いつも六、七割は使用されているということです。お願いします。

そして、駅前には観光物産センター、写真にありますようにちょっと展望台のようなタワーがあって、その下にあります。これは広域の19市町村で特産品をそろえての物産の直売をやるというようなことが取り組まれております。経費は6,000万ほどかかっておりますが、その売り上げで4,000万が見込まれているということでございます。その物産センターの名前が「なにやーと」というので、イベントホールやサークルルーム等もあって、特に小さなサークルルーム等は平日でも夜は予約でいっぱいというような状況で、そんなことがありますと、新幹線の利用者の駐車場をもっと確保できないという苦情があって、そのときには立て替え的に対応しているということでございました。お願いします。

二戸は盛岡市と八戸市との間にある3万人都市ということでございましたが、先ほど言いました青森県の南、秋田県の北東、岩手県の北と、3つの地域を3色に見立てたトリコロールエリアというのを構築をして、県境を越えた交流と連携の取り組みがございました。この地域も三遠南信とも重なって、関心を持って聞いたところでございます。お願いします。

次に、新花巻でございます。これはA班で既に報告がございました。お願いします。そういうことで、地元全額負担で引っ張ってきた駅だそうでございます。これが西口の正面で、A班でも言われましたけれど、ここも私、ここへは今年の12月、ことしの9月、そして今度と3回、駅と飛行場を使う機会がございました。最初に行ったときには、西口の有料駐車場が車がとまっておりました。9月と12月に行ったときには、西口の無料の舗装してない駐車場は満杯でした。そして有料のほうの駐車場もかなりの台数の車がとまっていました。そういう点では、かなり利用が進んでいるのかなという。ただ、駅の東口につくった宅地造成は、今年の12月に来たときには看板は立っておりましたけれど、9月に行ったときには人為的かどうかわかりませんが、売り地の看板は倒されておりました。1区画も売れていないという状況でございました。お願いします。そういうことで、21名で行ってまいりました。

以上で報告を終わります。ありがとうございました。

(高田事務局長) ありがとうございます。

3つのコース、それぞれ報告をいただきました。これをきっかけに、これから私どももリニアを活かす地域づくりの検討に取り組んでまいりたいというふうに思いますので、よろしく願いをします。本日はありがとうございました。

議長、これで閉じてよろしいですか。

(上澤議長) お願いします。

(高田事務局長) マリエールへ行かれる方はバスが来ておるはずでございますので、よろしく御乗車をしていただいて、御移動をお願いしたいと思います。

5. 閉 会

(高田事務局長) 本日、長い時間でしたが、お世話になりました。ありがとうございました。

閉 会 午後5時05分